

令和5年度 第1回北九州市発達障害者支援地域協議会

- 1 会議名 令和5年度 第1回北九州市発達障害者支援地域協議会
- 2 開催日時 令和5年8月1日（火）19:00～20:30
- 3 開催場所 ウェルとばた12階会議室
- 4 出席者
 - (1) 構成員（敬称略）
中村貴志、長森健、倉光晃子、尾首雅亮、今本繁、金光律子、大坪巧弥、北野里香、嶋村美由紀、伊野憲治、藤井敬太郎、古市隆司（計12名）
 - (2) 事務局
障害福祉部長 西尾典弘
障害福祉部 精神保健・地域移行推進課長（発達障害担当課長）角田禎子
障害福祉部 障害福祉企画課長 樋口聡
障害福祉部 精神保健・地域移行推進課 事業調整係長 西島秀幸
障害福祉部 障害福祉企画課 企画調整係長 山口浩二
- 5 会議次第
 - 【1 開会】
 - 【2 部長挨拶】
 - 【3 構成員紹介】
 - 【4 議事】
 - (1) 座長、副座長の選出
 - (2) 報告事項
発達障害支援に関する普及啓発等の取組み（発達障害支援を考えるシンポジウム開催、市政だより掲載）について
 - (3) 協議事項
 - ①次期北九州市障害者支援計画について
 - ②ワーキンググループの設置について
 - 【5 閉会】
- 6 会議経過・意見交換
 - (1) 座長、副座長の選出
・座長は中村貴志構成員、副座長は長森健構成員に決定した。

(2) 報告事項

■発達障害支援に関する普及啓発等の取組みについて

(事務局より説明)

資料をもとに、「発達障害支援を考えるシンポジウム」のアンケート結果や市政だより「発達障害による特性・特徴と上手に付き合うために」掲載について事務局より報告。

- ・アンケートの結果から、発達障害児者への対応についての市民の理解促進を図る事、強度行動障害の対応に悩んでいる市民や事業者の方々への今後の関わり方の一助としていただくという目的はある程度達成できたのではないかと感じている。
- ・市政だより（5月15日号）の1面と2面に発達障害に関する特集記事を掲載した。市政だより配布後に市民の方から「頑張ってるね」と励ましの電話を市役所にいただいた。北九州市発達障害者支援センターつばさ（以下、「つばさ」）にも反響があったと聞いている。

(構成員)

- ・市政だより発行後、「つばさ」に連日のように「市政だよりを見ました」ということで相談の電話をいただいた。7月に入っても電話をいただいております、反響の大きさを感じている。市政だよりに診断がなくても相談できると掲載した事で、相談するハードルが下がったのではないかと思います。

(構成員)

- ・シンポジウムは継続して開催することが重要。続けることで本当の意味で啓発・啓蒙につながると思う。

(3) 協議事項

①次期北九州市障害者支援計画について

(事務局より説明)

資料をもとに「次期北九州市障害者支援計画（以下、支援計画）」の発達障害児者に関する主な施策について事務局より説明。

- ・現在、北九州市障害者施策推進協議会（以下、施策推進協議会）で意見をいただきながら、支援計画の策定を進めている。支援計画で北九州市発達障害者支援地域協議会（以下、支援地域協議会）が関連する部分について構成員の皆様からも意見をいただきたい。

(構成員)

- ・「北九州市障害者計画」の体系や施策分野の見直し」の、【横断的視点】の4に、「障害のある女性」と記載されており、限定的に感じるが「女性」と記載した背景を教えてください。

(事務局)

- ・国の障害者基本計画（第5次）に「障害がある女性」と記載がある。また、障害者基本条約の条文にも同様の記載があり、国としてはこちらの内容を充実していくとの説明があったため、本市の計画にも新たに記載したものである。ただし、施策推進協議会でもジェンダーフリーの流れの中で「女性」という表現が適切かという指摘があり、今後修正について検討していく予定。

(構成員)

- ・分野4-(4)-5に「つばさ」を拠点として情報発信や訪問支援（アウトリーチ）機能の強化を図ると記載があるが、現状でどの程度アウトリーチしているのか。また、アウトリーチは発達障害だけでなく他の分野でも必要だと思うが記載がない。

(事務局)

- ・来所・電話相談がメインだと思うが、アウトリーチは自宅への訪問よりも関係機関への訪問を主としている。また、他の分野でも精神の方々へのアウトリーチという記載はある。事務局としては、「つばさ」を軸にして情報発信や機能強化したいという想いで記載した。

(構成員)

- ・「北九州市障害者計画」の体系や施策分野の見直し」の【社会情勢の変化】3に「2020年東京オリンピック・パラリンピックのレガシー継承」とあるが、レガシーとは何なのか？また、シンポジウムのアンケート結果の中で強度行動障害について、受け入れ先がない、家族で抱えるしかないという意見があった。計画を綺麗にまとめても、在宅支援が必要な重度の方などフォローできない方が出る事を懸念している。重度で本当に困っている方や行先が無い方でも地域で暮らせるように配慮いただける計画になると家族としてもありがたい。

(事務局)

- ・施策推進協議会でも「レガシー継承」とは何なのかと意見をいただいた。国の言う「レガシー継承」とは、例えばバリアフリーの観点・障害者目線で考えていく事であり、こういった視点は地方自治体の計画にも当然必要であると判断した。

(事務局)

- ・重度の強度行動障害に限らず、様々な障害を持った方がおり、本人だけでなく家族が、今後どうしていくかが課題である。3-(1)-2には障害の重度化の方への対応という事で適切な支給決定を行う事、3-(1)-3では、重層的支援体制について記載しており、今後は各区役所を中心に取り組んで行きたいと考えている。あと、3-(1)-4には地域生活支援拠点等の整備について記載しており、重度・親亡き後のことを見据え実際に障害のある方が地域で暮らしていけるように、体験の機会・場の提供など少しずつ段階を踏みながらグループホームでの一人暮らしなどの生活の場に移行できるよう、整備を図って行きたい。

(構成員)

- ・「レガシーの継承」という表現を変えることはできないのか？違和感を覚える。さっき説明があった言葉の方が分かりやすい。

(事務局)

- ・施策推進協議会で検討したい。

(構成員)

- ・障害者支援計画について、分野が多岐にわたり分かりづらい。事務局でもっと整理してもらわないいと、発達障害を取り扱う支援地域協議会で何について話したら良いか分からない。

(構成員)

- ・事務局で支援地域協議会から、計画のこの点については特に意見がほしいというのはあるか？

(事務局)

- ・計画は11の分野があるが、関連があると思う4分野のみ提出させていただいた。今後、他の協議会に諮る際にはもっと絞って提出するようにしたい。

(構成員)

- ・北九州市立総合療育センター(以下、療育センター)に精神科や児童精神科の医師を配置するなど、発達障害の支援に特化した機能強化をしていただきたい。併せて、幼児期から成人期までの支援を統合する仕組みづくり、専門の人材育成、どこの窓口で相談しても、必ずどこかを案内してもらえ

るような仕組みを整備してほしい。

(事務局)

- ・療育センターは初診待機の問題や患者が地域の方に流れていかないなど様々な課題がある事は承知している。医師会の先生にもご協力いただきながら、精神科医を確保し、いかに待機時間を短くするか、相談窓口の件など問題意識を持って取り組みたい。

(構成員)

- ・療育センターで強度行動障害の方を受け入れてほしいと要望をしているが、受入には至っていない。

(構成員)

- ・先ほども意見が出たが、障害者支援を進めていく中で相談機関というのは非常にある。計画の中では言葉として綺麗に整理はされているが、相談支援事業をしている機関と、「つばさ」ように専門的な支援をサポートする機関は役割が違う。それぞれの機関がどういう役割を果たしていくのかというのを明確にしないと、サポートを要する人たちに、有効に働か見えてこないで、「どういった役割を果たす相談支援機関」など説明があると、横断的な支援体制が見えてくると思う。

(事務局)

- ・相談を受けたら、必ず次のステップに繋いでいく体制を作らないといけないという観点も踏まえて計画を策定したい。また、「つばさ」の在り方についてもしっかりと考えていきたい。

②ワーキンググループの設置について

(事務局より説明)

資料をもとに、ワーキンググループの設置にいたる経緯や目的などについて事務局から説明。

- ・令和元年度に支援地域協議会設置後、講演会形式での議論を複数回行い、そこで出た課題をより専門的技術的視点で検討するために、令和3年度には専門部会を設置し協議を重ねてきた。特に専門部会の一つである第1部会（支援システム検討部会）でも、今後情報の共有や支援者であるコーディネーター間の調整など、一貫性を持った仕組みを作る事が課題として取り上げられた。この仕組みを考えていくには、もう少し内容を深掘りする必要があると事務局で判断しワーキンググループの設置に至った。

(構成員)

- ・市の医師会をメンバーに入れていただきたい。

(構成員)

- ・事業所の意見も聞くべき。もし可能であれば、ワーキンググループでいくつかの事業所にヒアリングをしてシステムを構築してはどうか？また、既存組織のみからメンバーを選出すると、各組織の利害関係が反映されるのみの議論となり意味がないので、学識経験者をもう1人入れても良いのでは？

(構成員)

- ・支援地域協議会とワーキンググループの機能をきちっと分けて客観性と距離を保ちながら、本当の意味で議論をすることが重要かと思う。検討内容については、主には第1部会が課題として置いてきたところを、さらに深掘りして、施策に反映できるように具体化しようというのがこのワーキングの一番のねらいである。支援地域協議会でもそういう課題は十分分かっているという意見を何回かいただいた。それに対して前に進めようというのがこのワーキンググループであると思う。

教育委員会はいかがか？

(構成員)

- ・特別支援教育相談センター（以下、相談センター）には早期支援コーディネーターが3名いるが、横の繋がりが広がりにくい状況である。幼児、児童、生徒に関する相談に対し、子どもの将来像を見据えながら、どんな支援が必要であるか、何か学びの場が無いかなどを考えている。市役所内にも色々な場でコーディネーターがいると聞いているので、コーディネーター間で情報共有や調整の仕組みは必要であり有意義だと思う。また、ワーキンググループの他にコーディネーター同士が集まって意見を聞ける場があれば良いと思う。

(構成員)

- ・昨年度、療育センターに紹介されるというコーディネーターはあるが地域の中に受け取ってもらうコーディネーターがとても大事だと協議会でお伝えした。ここがまさにコーディネーターの資質の向上だと思うので、そういった問題点を明らかにしてもらい、より深掘りをしていただくワーキンググループの設置は大賛成である。ぜひ力強く進めてほしい。

(構成員)

- ・「つばさ」にも様々な年齢の方から相談をいただいております、高齢者の発達障害など問題が多岐に広がってきて、私たちもどこに繋いでよいか分からない場合がある。今回のワーキンググループの設置によって、様々な機関のコーディネーターの状況を深く知る事ができるのは非常に有意義である。また、先ほど言われたようにワーキンググループのメンバー以外の様々な機関の役割やコーディネーターの事例などを吸い上げる仕組みがあれば良いと思う。

(構成員)

- ・支援地域協議会として、ワーキンググループの設置、検討内容やスケジュールについて了解いただいたという事でよろしいか？

(他構成員)

- ・異議なし。

(構成員)

- ・構成メンバーについては意見があったので、少し再調整をするということで本日の結論とする。

7 閉会

(事務局)

- ・障害者支援計画について追加でご意見があれば、意見シートを8月31日までに提出いただきたい。
- ・今年度は本日の会議を含め、3回の開催を予定している。第2回目の会議は本年12月の中旬から下旬頃開催予定で、内容は発達障害児の早期支援に関する取り組みの報告と、強度行動障害支援に関する取り組みを協議する予定である。3回目の会議は、来年の3月頃予定しており、内容は、今ご議論いただいたコーディネーターに関するワーキンググループの報告や次年度以降の取り組みに関する協議などを予定している。
- ・以上で支援地域協議会を閉会する。